

追 悼

木下是雄先生を悼む

辻 内 順 平

(東京工業大学名誉教授)

応用物理学会第8代(1968~1969)会長、学習院大学名誉教授の木下是雄先生は、2014年5月12日、96歳で逝去されました。この知らせは「応用物理」83巻12号¹⁾でも紹介され、また12月16日の朝日新聞その他でも報じられていますので、ご覧になった方々も多いと思います。

先生は1941年東京帝国大学理学部物理学科を卒業され、ただちに設立間もない名古屋大学工学部の講師、翌年4月改組後の名古屋大学工学部の講師に就任され、その後豊川海軍工廠の光学部に海軍技術将校として勤務されました。終戦後は名古屋大学理学部助教授として着任されましたが、1943年に新設の学習院大学理学部物理学科助教授となられ、新設の大学の教育研究体制の整備に取り組みられました。1953年4月に教授に就任、1981年学長に選任され、1985年に退任されると同時に同大学を退職されました¹⁾。

先生は応用物理学会の会長として、学会の運営について種々の新しい提案をされましたが、日本光学会においても光学懇話会当時第7代(1964~1965)の幹事長を務められています。

先生はまた、学会英文誌の整備に力を尽くされ、JJAP (Japanese Journal of Applied Physics) の創刊、および発展には非常な尽力をされました。当時、JJAPは日本物理学会と応用物理学会との共同運営であり、また共同編集を行っていましたが、筆者も編集委員長、運営委員長を仰せついていた頃は、たびたびご意見を伺うことができました。

現在の応用物理学会の分科会の会費の設定方法は、先生が1969年応用物理学会会長としての最後の理事会で会長試案として提案されたものであることはあまり知られていませんが、理事会の賛成を得て採択されました。

先生のご専門は光学、薄膜表面の物理などでしたが、光学分野では多重ビーム反射干渉フリンジの強度分布の計算²⁾がよく知られています。表面物理研究では、ガラスの研磨直後にガラス表面に生じる“ヤケ”の研究で知られ、当時のカメラ工業技術研究組合におけるその分野の研究をリードされ、日本の光学機械の生産に大きな寄与をされました。

光学研究の振興に関する国際組織であるICO (International Commission for Optics) では、久保田広先生(東大生研)のご逝去の後、ICOのVice Presidentに就任され、2期務められた後、その後継者として筆者を推薦されました。筆者がVice Presidentを1期務めた後、Presidentへの立候補を勧めていただきましたので、筆者はむしろ木下先生が立候補されるように申し上げたところ、現在では光学より表面物理に興味に移っているからとの理由で、筆者の立候補を強く勧めてくださいました。先生のお勧めにより立候補し、諸般の事情により1期(3年間)遅れましたが、1981年Presidentに選出されることとなり、先生のお勧めが実現できました。この件に関しては、木下先生に深く感謝しています。

新しい日本光学会が発足した今、いろいろ先生のご助言を頂きたかったのに、叶わぬこととなりました。ご冥福をお祈りいたします。

文 献

- 1) 馬來國弼：“木下是雄先生と応用物理”，応用物理，**83** (2014) 1034.
- 2) M. Born and E. Wolf: *Principles of Optics: Electromagnetic theory of propagation, interference, and diffraction of light*, 2nd ed. (Pergamon Press, New York, 1964) p. 353.